

## 日本語学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本語構造論特論Ⅰ	日本語文法研究	2	大木 一夫	前期 木曜日 2講時	
日本語構造論特論Ⅱ	文章・談話の構造論	2	甲田 直美	後期 月曜日 2講時	
日本語変異論特論Ⅱ	方言研究の開拓	2	中西 太郎	後期 水曜日 2講時	
日本語学特論Ⅰ	言語地理学の諸問題	2	大西 拓一郎	前期集中 その他 連講	
日本語学総合演習Ⅰ	日本語史・方言研究の諸問題 (1)	2	大木 一夫.甲田 直美.中 西 太郎	前期 火曜日 4講時	
日本語学総合演習Ⅱ	現代日本語研究の諸問題(1)	2	大木 一夫.甲田 直美.中 西 太郎	後期 火曜日 4講時	
日本語学総合演習Ⅲ	日本語史・方言研究の諸問題 (2)	2	大木 一夫.甲田 直美.中 西 太郎	前期 火曜日 5講時	
日本語学総合演習Ⅳ	現代日本語研究の諸問題(2)	2	大木 一夫.甲田 直美.中 西 太郎	後期 火曜日 5講時	
日本語構造論研究演習Ⅰ	物語論の実際	2	甲田 直美	前期 月曜日 3講時	
日本語変異論研究演習Ⅰ	日本語分析法	2	中西 太郎	前期 火曜日 2講時	
日本語変異論研究演習Ⅱ	言語変化研究	2	大木 一夫	後期 木曜日 2講時	
日本語変異論研究演習Ⅲ	方言調査法	2	中西 太郎	前期 水曜日 2講時	

科目名：日本語構造論特論 I / Structure of Japanese (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LM14203, 科目ナンバリング：LJS-LIN601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語文法研究

2. Course Title (授業題目) : Study of Japanese grammar

3. 授業の目的と概要：現代日本語の文法現象をとりあげ、それについての先行研究をふまえながら、文法的な分析を試みる。また、その内容について、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、議論する。テーマは、叙述類型。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course focuses on the grammatical phenomena of modern Japanese and conducts grammatical analysis. Through this, you deepen your understanding of Japanese grammar. The theme is typology of predication.

5. 学習の到達目標：(1) 日本語文法研究における先行研究の内容を把握し、その内容を説明できるようになる。

(2) 日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。

(3) 文法論的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

(1) be able to explain the contents of previous research in Japanese grammar research,

(2) be able to find problems in the analysis viewpoint and logical development of Japanese grammar,

(3) be able to think grammatically and report and discuss the results.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：文法研究とは何か

第 3 回：先行研究の分析について

第 4 回：テーマ概説

第 5 回：研究史の分析 (1)

第 6 回：研究史の分析 (2)

第 7 回：研究史の分析 (3)

第 8 回：研究史の分析 (4)

第 9 回：分析実践 (1)

第 10 回：分析実践 (2)

第 11 回：分析実践 (3)

第 12 回：分析実践 (4)

第 13 回：分析実践 (5)

第 14 回：分析実践 (6)

第 15 回：まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・講義内の小課題・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：(1) テキストを読み、その内容の要点を把握して参加する。

(2) 講義内の分析・議論についての疑問点を整理する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本語構造論特論Ⅱ／ Structure of Japanese(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LM21202, 科目ナンバリング：LJS-LIN602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文章・談話の構造論

2. Course Title (授業題目) : Discourse and Conversation Structure

3. 授業の目的と概要：文章・談話の構造は、どのようにして捉えることができるであろうか。研究手法としては、(1)文法論との接点から、談話・文章における結束性保持の手段を考える研究、(2)会話分析を中心とする実際に生じた会話の参与構造を扱う研究に大別できる。これらの研究について整理し、解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course deals with the foundations of discourse and conversation analysis. Do these two approaches simply study the same things, but in different ways? This course compares conversation analysis (CA) with discourse analysis (DA) as methodological approaches to the study of talk.

5. 学習の到達目標：(1)近年の研究で重要とされる理論を理解する。(2)授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of conversation analysis and discourse analysis, and compare two approaches to the study of talk.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～
2. 音声, イントネーション
3. ターン交替, TCU
4. 分析データの記述法
5. 音声転記の方法
6. コーパス, 言語のバリエーション
7. コンピューター実習 KWIC Finder, Praat, Audacity
8. 会話に頻繁に見られる現象1
9. 会話に頻繁に見られる現象2
10. 会話に頻繁に見られる現象3
11. 会話に頻繁に見られる現象4
12. 研究テーマの着眼点, レポートの書き方
13. 研究の進め方1
14. 研究の進め方2
15. レポートの書き方

8. 成績評価方法：

レポート [60%]・出席 [10%]・授業中の提出物 [30%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：会話・対話・談話研究のための分析単位の実際をデータを元に観察する。

音声言語コミュニケーションのための分析単位 IU の実際をデータと対照する。

会話データを作成し、会話分析の手法を体験する。

論文を読んで論点を提出する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本語変異論特論Ⅱ／Variation of Japanese(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LM23201, 科目ナンバリング：LJS-LIN603J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：方言研究の開拓

2. Course Title (授業題目)：Pioneering Dialect Studies

3. 授業の目的と概要： これまでの方言研究では、ことばの運用の地域差の解明に資する資料の蓄積とそれを用いた研究がまだ十分とは言えなかった。また、それらも含めたことばの総合的な地域差の研究成果をもとに、研究成果を社会に還元する取り組みにもさらなる展開の余地があると言える。

近年ではことばの運用の地域差解明に向けた理論と研究視座が発展し、ことばの地域差の研究成果を応用する実践的方言学も展開している。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な言語運用の地域差の記述、分析、応用を通してさまざまな課題について検討していく。

今回は特に、これまで研究が進んでいなかった言語行動や感動詞、談話などを取り上げる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： Conventional dialect research has yet to accumulate enough data that would contribute to the clarification of regional differences in the use of language and to conduct research using such data. There is also room for further development in efforts to return research results to society based on the results of comprehensive research on regional differences in language, including regional differences in language use.

In recent years, theories and research perspectives have been developed to elucidate regional differences in language use, and practical dialectology has also been developed to apply the results of research on regional differences in language use. In this class, the purpose and methodology of such research will be explained, and various issues will be discussed through the description, analysis, and application of regional differences in specific language operations.

This time, we will particularly focus on linguistic behavior, interjections, and discourse, which have not been studied before, and consider their structure, variation, and regional differences in operation, and also examine their historical aspects.

5. 学習の到達目標：(1)講義でテーマにする研究領域の知見と研究動向を理解し説明できる

(2)講義でテーマにする研究領域の分析を的確にできる

(3)ことばの研究成果を応用する実践的な取り組みができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Understand and explain the findings and research trends of the research topics covered in this lecture

(2)To be able to analyze accurately the research topics in this lecture

(3)To be able to apply the results of research in dialectology in a practical way

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(1)

第3回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(2)

第4回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(3)

第5回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(1)

第6回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(2)

第7回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(3)

第8回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(1)

第9回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(2)

第10回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(3)

第11回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(1)

第12回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(2)

第13回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(3)

第14回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(4)

第15回：半期の総括

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

8. 成績評価方法：

レポート(80%)、授業への参加状況(課題などへの取り組みを含む)(20%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、補助資料を配布する。参考文献は、授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：言語行動や感動詞、談話について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

なし

オフィスアワー：随時

科目名：日本語学特論 I / Japanese Linguistics (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：1 学期集中 単位数：2

担当教員：大西 拓一郎

コード：LM98804, 科目ナンバリング：LJS-LIN604J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語地理学の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Issues in Geolinguistics

3. 授業の目的と概要：言語地理学の基本を理解した上で、方言分布を生み出す言語変化にはどのようなものがあり、それが地理的条件とどのようにかかわるのかを学ぶとともに、実際に言語地図を作成する実習を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The purpose of this lecture is to understand the basics of geolinguistics with studying the relationships between language changes and the dialectal distributions. It is necessary to practice making language maps (dialect maps) for to realize the objectives of this course.

5. 学習の到達目標：言語の本質と言語変化の関係、ならびに言語変化とそれが生み出す方言分布の関係を理解し、方言分布の背景ではどのような人間社会が働いているのかを地図を通して考察する能力を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The goals of this lecture are understanding the basic thought on the relationships between the nature of language and language changes. Abilities to analyze how the language changes make dialect distributions behind humanities will be captured through this lecture.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 言語の空間性と方言地図
2. 言語変化と方言
3. 伝播による分布形成
4. 方言地図作成実習(1)
5. 接触による分布形成
6. 言語変化と社会環境
7. 言語変化を支える言語システム
8. 方言地図作成実習(2)
9. 類音牽引
10. 民間語源
11. 同音衝突(1)
12. 方言地図作成実習(3)
13. 同音衝突(2)
14. 混淆
15. 言語地理学の展望

8. 成績評価方法：

レポート 70%、授業参加 30%

9. 教科書および参考書：

大西拓一郎（著）『ことばの地理学』（大修館書店）

10. 授業時間外学習：言語地図作成の実習は授業時間外にも繰り返し行い、基本操作が身につくようにする。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

オープンソースの GIS ソフト QGIS を用いて言語地図作成の実習を行います。そのため、PC を持参して授業に参加してください。

科目名：日本語学総合演習 I / Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：大木 一夫, 甲田 直美, 中西 太郎

コード：LM12403, 科目ナンバリング：LJS-LIN606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語史・方言研究の諸問題(1)
2. Course Title (授業題目) : Studies of Japanese language history and Japanese dialect
3. 授業の目的と概要：日本語史・方言研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Participants survey and criticize prior research on Japanese language history and Japanese dialect, and determine their own themes and research methods, while grasping current academic trends where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.
5. 学習の到達目標：(1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。  
(2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。  
(3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.  
(2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.  
(3) Discussions can be made based on the content of the oral presentation.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
授業計画  
第1回：ガイダンス・研究発表の方法  
第2回：研究発表(1)  
第3回：研究発表(2)  
第4回：研究発表(3)  
第5回：研究発表(4)  
第6回：研究発表(5)  
第7回：研究発表(6)  
第8回：研究発表(7)  
第9回：研究発表(8)  
第10回：研究発表(9)  
第11回：研究発表(10)  
第12回：研究発表(11)  
第13回：研究発表(12)  
第14回：研究発表(13)  
第15回：研究発表(14)  
定期試験は実施しない。
8. 成績評価方法：  
(1) レポート（研究発表の内容にもとづく論文） 90%  
(2) 参加態度（口頭発表に対する質疑・応答など） 10%
9. 教科書および参考書：  
教科書は使用しない。  
参考書：  
佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014  
飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007  
日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018
10. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習Ⅲも連続履修すること。

科目名：日本語学総合演習Ⅱ／ Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：大木 一夫, 甲田 直美, 中西 太郎

コード：LM22404, 科目ナンバリング：LJS-LIN607J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本語研究の諸問題(1)

2. Course Title (授業題目)：Studies of contemporary Japanese language

3. 授業の目的と概要：現代日本語研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：About modern Japanese Studies participants survey and criticize prior research on the themes of each participant, and determine their own themes and research methods, while grasping the current trends in the academic world where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.

5. 学習の到達目標：(1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。

(2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。

(3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.

(2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.

(3) Discussions can be made based on the content of the oral presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

(1) レポート (研究発表の内容にもとづく論文) 90%

(2) 参加態度 (口頭発表に対する質疑・応答など) 10%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

10. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**12. その他：**

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習IVも連続履修すること。

科目名：日本語学総合演習Ⅲ／ Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：大木 一夫, 甲田 直美, 中西 太郎

コード：LM12502, 科目ナンバリング：LJS-LIN608J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語史・方言研究の諸問題(2)
2. Course Title (授業題目) : Studies of Japanese language history and Japanese dialect
3. 授業の目的と概要：日本語史・方言研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Participants survey and criticize prior research on Japanese language history and Japanese dialect, and determine their own themes and research methods, while grasping current academic trends where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.
5. 学習の到達目標：(1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。  
(2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。  
(3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.  
(2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.  
(3) Discussions can be made based on the content of the oral presentation.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
授業計画  
第1回：ガイダンス・研究発表の方法  
第2回：研究発表(1)  
第3回：研究発表(2)  
第4回：研究発表(3)  
第5回：研究発表(4)  
第6回：研究発表(5)  
第7回：研究発表(6)  
第8回：研究発表(7)  
第9回：研究発表(8)  
第10回：研究発表(9)  
第11回：研究発表(10)  
第12回：研究発表(11)  
第13回：研究発表(12)  
第14回：研究発表(13)  
第15回：研究発表(14)  
定期試験は実施しない。
8. 成績評価方法：  
(1) レポート (研究発表の内容にもとづく論文) 90%  
(2) 参加態度 (口頭発表に対する質疑・応答など) 10%
9. 教科書および参考書：  
教科書は使用しない。  
参考書：  
佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014  
飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007  
日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018
10. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習 I も連続履修すること。

科目名：日本語学総合演習Ⅳ／ Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：大木 一夫, 甲田 直美, 中西 太郎

コード：LM22502, 科目ナンバリング：LJS-LIN609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本語研究の諸問題(2)
2. Course Title (授業題目)：Studies of contemporary Japanese language
3. 授業の目的と概要：現代日本語研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：About modern Japanese Studies participants survey and criticize prior research on the themes of each participant, and determine their own themes and research methods, while grasping the current trends in the academic world where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.
5. 学習の到達目標：(1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。  
(2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。  
(3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.  
(2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.  
(3) Discussions can be made based on the content of the oral presentation.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
授業計画  
第1回：ガイダンス・研究発表の方法  
第2回：研究発表(1)  
第3回：研究発表(2)  
第4回：研究発表(3)  
第5回：研究発表(4)  
第6回：研究発表(5)  
第7回：研究発表(6)  
第8回：研究発表(7)  
第9回：研究発表(8)  
第10回：研究発表(9)  
第11回：研究発表(10)  
第12回：研究発表(11)  
第13回：研究発表(12)  
第14回：研究発表(13)  
第15回：研究発表(14)  
定期試験は実施しない。
8. 成績評価方法：  
(1) レポート (研究発表の内容にもとづく論文) 90%  
(2) 参加態度 (口頭発表に対する質疑・応答など) 10%
9. 教科書および参考書：  
教科書は使用しない。  
参考書：  
佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014  
飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007  
日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018
10. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**12. その他：**

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習Ⅱも連続履修すること。

科目名：日本語構造論研究演習 I / Structure of Japanese (Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LM11303, 科目ナンバリング：LJS-LIN612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：物語論の実際
2. Course Title (授業題目) : Narratology in Practice
3. 授業の目的と概要：物語の分析理論が、実際の物語作品のことばの分析にどのように適用できるかを演習をとおして体験する。物語にはフィクションとしての物語作品の他に、日常会話における語り（ナラティブ）も含む。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Through exercises, students will experience how the theory of narrative analysis can be applied to the analysis of the language of actual narrative works. Narratives include not only fictional narrative works but also narratives in everyday conversation.
5. 学習の到達目標：物語の理論をもとに物語作品を具体的に分析する。  
語りのデータを会話分析による記述法から扱う。  
語りのデータベースを作成する。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : (1) be able to analyse narrative works based on narrative theory.  
(2) be able to handle narrative data in spoken language from descriptive methods based on conversation analysis.  
(3) be able to create a database of narratives.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. 授業の概要
  2. 物語の分析理論 1
  3. 物語の分析理論 2
  4. 語りの分析
  5. ナラティブ分析の現在
  6. 物語作品の分析 1
  7. 物語作品の分析 2
  8. 物語作品の分析 3
  9. 会話データの分析 1
  10. 会話データの分析 2
  11. 語りの分析 1
  12. 語りの分析 2
  13. 研究発表の実際 1
  14. 研究発表の実際 2
  15. 研究の公表へ向けて
8. 成績評価方法：  
授業参加および提出物による。
9. 教科書および参考書：  
プリントを授業内で配布する。
10. 授業時間外学習：扱う言語資料（文献および言語データ）を事前に読んでおく。語りのデータベースを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：日本語変異論研究演習 I / Variation of Japanese (Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LM12203, 科目ナンバリング：LJS-LIN613J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語分析法

2. Course Title (授業題目)：Japanese language analysis method

3. 授業の目的と概要： この授業では身近な日本語を材料にして日本語がどのような仕組みで成り立っているのかを分析する。分析の対象は、音声意味、表記、語種、会話、方言、若者言葉、敬語、非母語話者の日本語など、多様な日本語の事象を取り上げる。様々な視点での日本語の分析実践を通して、どのように分析すればよいのかという研究視点と分析手法を身に付ける。

授業では、参加者はグループで問題に取り組み、その問題の分析結果を発表する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： In this class, we will analyze how the Japanese language is structured using familiar Japanese as material. The subjects of analysis will include a wide variety of Japanese phenomena such as phonetic meaning, notation, word types, conversation, dialects, young people's language, honorifics, and the Japanese of non-native speakers. Through the practice of analyzing Japanese from diverse perspectives, participants will acquire research perspectives and analytical methods on how to analyze.

In the class, participants will work on problems in groups and present the results of their analysis of the problems.

5. 学習の到達目標：(1) 研究対象に応じた分析手法を選ぶことができる。

(2) 研究対象に応じた分析視点を説明することができる。

(3) 自己や他者の意見から見出した具体的で適切な事例に基づいて、日本語の特徴を説明することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) To be able to select an analytical method appropriate to the research subject.

(2) To be able to explain the analytical viewpoints appropriate to the research subject.

(3) To be able to explain the characteristics of the Japanese language based on specific and appropriate examples found in one's own and others' opinions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：ことばの意味

第 3 回：若者ことば

第 4 回：和語・漢語・外来語

第 5 回：会話の失敗

第 6 回：音声と文字

第 7 回：ことば遊び

第 8 回：話しことばと書きことば

第 9 回：あいまい文

第 10 回：カタカナ

第 11 回：マンガのことば

第 12 回：方言

第 13 回：丁寧体と普通体

第 14 回：漫才のことば

第 15 回：外国の人の日本語

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

8. 成績評価方法：

レポート(30%)・授業への参加状況(課題・発表などへの取り組みを含む)(70%)

9. 教科書および参考書：

野田尚史・野田春美(2017)『日本語を分析するレッスン』大修館書店、ISBN:9784469213621

10. 授業時間外学習：(1) テキストを読み、当該授業の問題の回答をあらかじめ考えて授業に参加する。

(2) テキストの内容を復習するとともに、当該授業のトピックに関連する身の回りの言葉を観察し、授業で得た知見を検証する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

なし

科目名：日本語変異論研究演習Ⅱ／ Variation of Japanese(Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LM24204, 科目ナンバリング：LJS-LIN614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語変化研究

2. Course Title (授業題目) : Study of language change

3. 授業の目的と概要：日本語史研究は、古い時代の日本語がどのような姿であったのかという点は、かなり精細に明らかにしてきている。それに対して、言語はどのように変化するのか、また、言語はなぜ変化するのかという観点からの分析が十分ではない。そこで、日本語の歴史におこった言語変化をあとづけながら、そこにはどのような変化があったのか、また、なぜ変化したのかという観点からの分析を加える。参加者が調査・考察をおこなって、その成果を発表し、議論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, you will clarify the language changes that have occurred in the history of Japanese language, and analyze how they changed there and why. Students conduct surveys and analyses, publish and discuss the results.

5. 学習の到達目標：(1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。

(2) 日本語史上の言語変化の問題点を見いだすことができるようになる。

(3) 言語変化をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

(1) be able to read literature related to the study of Japanese language history.

(2) be able to find the problem of language change in Japanese language history.

(3) be able to conduct research to clarify language changes, and report and discuss based on them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 言語変化研究の現状(1)

3. 言語変化研究の現状(2)

4. 言語変化研究の現状(3)

5. 言語変化研究の問題意識(1)

6. 言語変化研究の問題意識(2)

7. 言語変化についての研究発表(1)

8. 言語変化についての研究発表(2)

9. 言語変化についての研究発表(3)

10. 言語変化についての研究発表(4)

11. 言語変化についての研究発表(5)

12. 言語変化についての研究発表(6)

13. 言語変化についての研究発表(7)

14. 言語変化についての研究発表(8)

15. 言語変化についての研究発表(9)、まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

テキスト：大木一夫編『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房2019。

その他、必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：日本語史研究・言語変化研究にかかわる文献資料を読んで参加する。

言語変化の過程、要因の研究方法について検討する。

日本語史上の言語変化についての調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本語変異論研究演習Ⅲ／ Variation of Japanese(Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LM13203, 科目ナンバリング：LJS-LIN615J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：方言調査法

2. Course Title (授業題目) : Method of the dialect investigation

3. 授業の目的と概要： 方言のしくみや地理的広がりを把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。

なお、コロナウィルス感染症の影響で現地調査が困難な場合は、オンライン調査に切り替えて実施する予定である。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Investigation method to grasp structure of a dialect and a geographical expanse is considered specifically. Dialectology by a dialect geography in addition to a descriptive study and social dialectology or a vernacular document is taken up. The record of dialect conversation is made one theme. A dialect investigation is performed actually in the second half in a semester or the summer holidays, so a participant has to participate in that from the stage of preparations. If it is difficult to conduct a field survey due to the effects of coronavirus infection, we plan to switch to an online survey.

5. 学習の到達目標：(1)方言調査の調査内容・方法を立案・検討できる

(2)方言調査の実施計画を立てて方言調査を実践できる

(3)方言調査の結果を報告し、議論を踏まえて次の研究課題を見つけることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標) : (1) To be able to plan and examine the contents and methods of a dialect survey

(2) To be able to plan the implementation of a dialect survey and practice dialect research

(3) To be able to report the results of a dialect survey and find the next research topic based on the discussion

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明

2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業

3. 方言的特徴の調べ方についての解説 (1)

4. 方言的特徴の調べ方についての解説 (2)

5. テーマ等設定に向けての作業 (1)

6. テーマ等設定に向けての作業 (2)

7. 中間報告 (1)

8. 中間報告 (2)

9. 調査票の作り方についての解説

10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法

11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方

12. 現地調査と結果の分析 (1)

13. 現地調査と結果の分析 (2)

14. 最終報告 (1)

15. 最終報告 (2)、授業のまとめ

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

8. 成績評価方法：

レポート(50%)・授業への参加状況(課題などへの取り組みを含む)(30%)・発表内容(20%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は適宜授業で指示する。

10. 授業時間外学習：(1)テーマの設定、中間報告、最終報告のための準備を行う。

(2)現地調査に参加し、結果の分析を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

なし

オフィスアワー：随時